

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1473300398
法人名	株式会社 コスモス
事業所名	コスモス長津田
訪問調査日	平成29年1月20日
評価確定日	平成29年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473300398	事業の開始年月日	平成14年7月1日	
		指定年月日	平成26年7月1日更新	
法人名	株式会社 コスモス			
事業所名	コスモス長津田			
所在地	(226-0018) 横浜市緑区長津田みなみ台1-6-7			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成29年1月1日	評価結果 市町村受理日	平成29年4月18日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居している方の生活のペースを尊重して、自分でできることはしていただき、できないことは職員が補う形で介護していく方針を持って、お互いが楽しく家庭的な雰囲気です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成29年1月20日	評価機関 評価決定日	平成29年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所の経営は株式会社コスモスです。法人は、H14年7月にこのコスモス長津田を最初に開設して、その後、グループホーム1ヶ所、高齢者専用賃貸住宅1ヶ所、デイサービス1ヶ所を開設しています。法人として初めに開設された「コスモス長津田」は、コスモスのケアの原点となっています。立地は、JR横浜線と東急田園都市線が交わる長津田駅から徒歩10分の、都市区画整備が施された環境の良い場所にあります。事業所は駅から国道246号線をまたぐ広い道路に面しており、事業所から離れた場所は一段低くなっていて見晴らしも風通しも良い住宅地に囲まれています。定員9名の1ユニットですが、1,2階に居室があり、エレベーターも設置されています。

●理念に「利用者の立場に立ったサービス」「地域との交流を大切にしていく」「自立支援」の3項目を掲げています。理念は職員が必ず出入りする玄関と更衣室に掲示し、職員に周知しています。理念に基づくケアについて、週に1回程度、事業所内研修で教育担当職員による勉強会を開催しています。新規採用者には、管理者が採用時研修及び日々のケアの中で理念について話しています。

●管理者はケアについて、利用者の言葉、態度、身体の観察から気づきを増やすことに重点を置いて取り組んでいます。その日その日で利用者は変わる、同じケアをすれば良いものではない、職員・利用者ともに相手の声を聴いて内容を掴みケアに繋げる。言葉遣いに注意する、行動は観られていることを意識する、利用者はおお客様である。これらのことを意識しながら業務を全うするように職員に話しています。そのためにも、職員の勉強会を定期的を実施すると共に日々のケアの中でベテラン職員による指導（OJT）体制を整えて、質の高いケアサービスが出来るように日々奮闘しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	コスモス長津田
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき実践をしているが、ここ一年はスタッフが変ることが多く、言葉で説明はしているがまだまだ全体に周知している状態ではなく、日々努力中である	理念に「利用者の立場に立ったサービス」「地域との交流を大切にしていく」「自立支援」を掲げ、理念は職員が毎日出入りする玄関と更衣室に掲示し、職員に周知しています。理念に基づくケアについて、週に1回程度、教育担当職員による勉強会を開催しています。新規採用者には、管理者が採用時研修及び日々のケアの中で理念について話をしています	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と一緒に歩む姿勢は自治会主催の文化祭に出展したり、祭りに参加したりしている。また、長津田地域ケアプラザ主催のものにも参加している。また、地域のボランティアの方にも参加していただいている。	町内会の夏祭りやどんど焼き、防災訓練などの行事にも参加し、交流を深めています。ボランティアのピアノ、歌、傾聴等の方々の協力で、利用者の楽しみを増やす努力をしています。また、ご近所との交流については、事業所の催事に参加していただく他、災害時の地域との協力体制にあることや地域の見守りネットワークに入っています。毎年中学生の学習体験も受け入れています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域活動の中で見守りネットワークに参加し認知症の方が困っている時の対応などを中心に処点になるべく努力中			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の病状等も話して相談をさせていただいている。	包括支援センター担当者、利用者および利用者家族、管理者の出席の元、2ヶ月に1回開催しています。入居者の状況、行事实施報告と予定、防災訓練・災害時の避難の具体策や、広域避難場所（小学校）での受け入れ体制、事業所で所有している発電機の活用に関しての話し合いを行っています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	緑区役所の介護保険課に相談したりインフルエンザなどの助成なども積極的に行っている。	グループホーム連絡会では役所担当者と接触の機会があり、意思の疎通を図っています。区役所の介護保険課とはインフルエンザ予防接種費用の助成や事故報告書の提出、介護保険の更新等で連絡に訪れます。行政主催の研修会には必ず出席して、帰所後の研修内容に反映しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいるが、夜間などの場合に事故防止のため階段を封鎖している（エレベーター使用可）	身体拘束廃止マニュアルが整備されており、「身体拘束はしないケア」に取り組んでいます。行政の研修会には必ず出席して、参加した職員を講師として全職員に伝達研修を行っています。玄関及び内扉の施錠はさ行わず、玄関マットのチャイムと見守りにより利用者の安全を確保しています。スピーチロックは気付いた職員同士で注意し合うようにしています	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は見過ごさないようコミュニケーションをとり、スタッフ間より話しを聞いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見で司法書士、弁護士の方と連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、読みあわせを行い疑問点があるか確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方からピアノ演奏ボランティアをしたいとの申し出があり、4月からお願いしている。家族からの要望は利用者の通院なども含め、出来る限り行っている。	普段の来訪時、家族会の時に意見や希望を聞くように心がけています。毎月各利用者の生活状況を文書にして請求書に同封して近況をお知らせしています。また、毎月「コスモス通信」を送付し、事業所での生活ぶりや、行事の様子を知らせ、家族との連携を図るように努めています。いただいた意見は、ケアの参考にし、ケアの向上に繋げています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は出来るだけ耳を傾け、提案を聞き改善している	日常的に管理者は現場に入ることも多く、日頃から職員の意見を聴くように努めています。業務引き継ぎミーティング、必要に応じての職員会議、ケアカンファレンス、研修会等の様々な場面でも、話し合う機会を設けており、全職員からの意見を聞いています。また、随時個別面接を行い、職員の意見や希望も聞くようにしています。	今後の継続	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力は把握している。職員個々の能力に合わせた教育に取り組んでいる。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在15歳の職員に対しては社会人としての基本マナーから研修をしてもらっている。時間がかかるがご両親と話し合いを持ちながら育てている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣のGH「ほほえみ」の運営推進会議に参加させていただいている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との信頼関係を築く為に出来るだけ2階の事務所で作業をし、困っている事に対応している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることは出来るだけ伺って関係作りに努めている。②さんの手術や通院などを協力して行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の要望の把握に努め、新しい生活への導入をスムーズにしていくために、常に笑顔で接している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	着任した当時、一方的に強い立場の職員もいたので、研修の中で職員としての心構えや言葉遣いに注意するよう伝え、共に暮らすことの意味を履き違えないように気配りをしている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人やご家族等と話し合う機会を設けていて、絆を大切にしながら支援していけるよう関係を築いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との連携を密にして、今後の生活を知り、出来ることを継続していくことが出来るように支援している	家族の来所の他、近所の知り合いが利用者を誘って外食に行く、法事等の集まりにお連れしたいと言う家族も中に入るので、馴染みの関係を継続出来るように支援しています。また、友人の来訪の際は、笑顔で明るい雰囲気作りを心がけ「また訪れたい」と思っただけのけるように努めています。年賀状を出す利用者の支援、友人に電話する利用者は事業所の電話を使ってもらうようにしています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに助け合える関係を築いている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	心掛けている。長津田に来て日が浅いのでなんとも言えませんが、以前入居されていたご家族とも、必要に応じて相談等に乗っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者第一に考えている。又、スタッフにもその様に指導している。	日々の支援の中で、心身の情報、本人の能力、本人からふと漏れる言葉、身体表情、家族の発言、職員の対応、ケアのヒント工夫、医師・看護師の医療情報などを時系列にケース記録に記入します。職員の共有事項は連絡帳に記載して共有しています。いつもと違う症状が有る場合は、状況に応じて家族、看護師、医師など関係者に連絡して早期の対応に努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取り調査はもちろん、それ以外でも面会に来られた時など、伺ったことを出来るだけ記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変わる人もいるがおおむね把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週1回のケアカンファを行い、ケアプランに生かすことが出来るようにしている。来訪時に、利用者の家族との話しが弾むように「共に」過ごすように心掛けている。	入居前に生活習慣・生活歴等を本人・家族から聞き取り、面接記録を作成した後に、初回介護計画に反映させています。入居後1ヶ月程度様子を見て、各人の全ての情報が記入されているケース記録・モニタリング表・往診録・看護録を基にして見直しを行い、介護計画を作成します。そして、見直しケースケアカンファレンスで、職員全員の意見を反映させています	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子観察で気づきを大切にし、職員間で共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの中で出来ることを最大に生かし、より良い暮らしへの努力を重ねてきている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化祭などに出席し、評価を頂いている。又、本人希望により皆さんで王子神社に参拝に行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には、情報提供を行うと共にアドバイスを受けることが出来るように密な繋がりを大切にしている。	かかりつけ医の往診は月2回、歯科は週1回の往診があります。看護師の巡回は毎週あり、適切に利用者の健康管理が行われています。現在は利用者全員が協力医療機関の往診医をかかりつけ医になっています。利用者の希望での特別の受診に関しては、家族対応でお願いしていますが、家族の対応が出来ないときは職員による通院介助を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は日々の生活の中で夜となく昼となく観察し、変化に早く対応し、適切な受診が受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は相談しあい、良い関係作りを行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	「重度化した場合い於ける対応に係わる指針」を入所時に、本人、家族に説明しています。また、医師の診断でその時期が近づいた際は医師、看護師、家族、管理者を交え、方向性を相談しながら万全を図り、支援しています。看取り介護のマニュアルも整備し、マニュアルを参考にしながら研修を行っています。事業所では看取りの実績も多数あります。		今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡体制やマニュアル整備が整って、日頃から緊急時について話し合いを行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新しい職員に研修している最中である。	年2回、防災訓練を実施し、消防署立ち会いの下、昼間及び夜間を想定した訓練も実施しています。避難マニュアルも整備し、火災発見時には窓を開けて外に向かって大声で近隣に救助求める想定訓練も実施しています。停電時の緊急対応の自家発電機も設置しており、操作の確認も行っています。備蓄は食糧、水等を3日分程度確保しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃の生活の中で得られた、一人ひとりの生活の流れに沿って、本人の気持ちを尊重し、少しでも楽しい時が持てるように支援している。	その人の意思を尊重し、年長者としての尊厳を保ち、その人らしく生活していくことができるよう配慮しています。言葉掛けには特に注意を払い、繰り返し言ったり、威圧的な大きな声を出したりは絶対行わないようにスタッフ間で注意を払っています。特に、注意事項として、失禁対応などのプライバシーに関することは部屋番号に置き換える等、配慮しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に身近にいて頼られる存在であると共に気軽に話し合えるように努めている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの気持ちを把握した上で、その日の流れがスムーズに行くように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝食前後の挨拶の際、顔の表情と共に身だしなみについても、笑顔で話し合えるように心掛けている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味付け、盛り付けなどに注意し美味しいと言われるよう努力している。作ることは難しいが、片付けなどを一緒に行ってもらっている。	食材業者を利用して食事を準備しています。利用者は、おしぼりの準備、もやしのおひげ取りなど出来ることを手伝っていただいています。また、四季ごとに利用者からアンケートを取って希望を取り入れた食事の提供も行っています。節分やクリスマス等の際は手作りで食事を準備し、花見等の外出の際は、外食を行っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取の記録は当然の事ながら、なかなか摂取できない方については、ポカリスエットやお好きな果物などを考えている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のケアと就寝前の入れ歯の洗浄については日頃より欠かさず実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	食後等のトイレへの誘導。その人にあった排泄パターンを知り、気持ちよく一日が過ごせるように努めている。	トイレでの自立排泄を目標にして排泄パターン表で各々の排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行っています。常に気を配り、良いタイミングでトイレ誘導することによって紙オムツの節約を図っています。失禁の無い、気持ちの良い生活ができるように支援しています。現在布パン着用の自立の方は3名います。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量を出来るだけ増やすと共に、水分補給、食事量の確保、排便時間の把握などを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時には、楽しい雰囲気作りに努めスムーズな誘導を心掛けている。	入浴は、週2回を基本としていますが、利用者の希望に合わせて柔軟な対応を心がけています。風呂場は、段差のついた湯船を配置するなど、入り易い配慮がなされています。入浴を嫌がる方には、時間や介助者を変える等、工夫して勧めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく眠れるよう支援している。時間によっては、眠くない人もいます。夜間に起きて窓を見ている人もいますが事故の起きないような配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬などの効能を把握し、又誤薬・落ち薬のない様最善の注意し、スタッフ同志確認しあい施行		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や「できること」「できないこと」を理解し、その人らしい生活が出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近隣の散策や買物に同行していただいているがその時の状況により、無理はしないようにしている。	利用者のADLに差があり、全員での外出や散歩は難しくなっていますが、気候や体調が良い日には近くの公園や喫茶に個別対応で出かけています。春には近くの大林寺に枝垂れ桜を見に行ったり、遠出の計画では、桜見や四季の森、ショッピングセンターに出かけ、他事業所と合同で温泉に行ったりする等の企画も実施しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じた支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日や、遠くに折られる(外国など)娘さん達からの電話を受けて笑顔がこぼれる一時がみられる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の風景を取り入れ、共に飾り話しも弾む。季節のテーマを習字であらわしている。	共用空間のインテリアは、清潔で季節感のある大人の雰囲気を出すようにしています。窓からの眺望も良く、四季折々の風景の変化も楽しめるようになっています。ソファを配置し、有線放送のBGMを流しながらゆっくりと寛げるスペースも確保されています。リビングでは、定期的にピアノ演奏のボランティアと歌ったりしています。また、食後には代表自らが懐メロを弾いて利用者が歌ったり、トランプやカルタ、風船バレー等をして楽しい時間を過ごしています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席などを工夫している			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各職員に居室担当を決め、衣替えやたんすの整理などの清掃を実行している	居室にはクローゼットと洗面台が備え付けてあり、長年使い慣れた家具や調度品を持ってきてもらい、自分なりの寛げる部屋を設えています。部屋の掃除は週1回日曜日に行っています。出来る方は自分で行ってもらい、それ以外の方も自立指向の観点からスタッフと一緒にしています。また、寝具類の交換は定期的に行い、清潔に保っています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし、出来ることは極力ご本人にして頂くように心掛けている。			

目 標 達 成 計 画

事業所

コスモス長津田

作成日

2017年1月20日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
4	12	研修頻度を多くする	一月に一回の開催とする	一月に一回の開催とし、且つ申し送り寺に会議に出席できなかったスタッフに個別に研修をする	一年
1	12	利用者の身体、発言、行動から心情を観察する力を育てる	利用者の様子の観察からきづきを増やし変化に対応する	入浴時、デイでのレク時、起床時、入眠寺などから心と体の健康状態を知る	一年
5	13	スタッフが自立する	利用者の様子はその日その日で変わるもの。同じケアをすればよいものでないことを知る	スタッフ間において、相手のケアを尊重する	一年
2	13	相手の話を良く聞く。相手の気持ちを汲み取る	スタッフ、利用者ともに相手の声を聞いて内容を掴み取る	傾聴し、相手の気持ちを汲み取り、ケアにつなげる	一年
3	13	スタッフは技術を身に着ける	言葉がけ（言葉遣い）事故が起きないようにする。紙オムツの利用数を減らし、利用者の排泄の自立につなげる	日頃から言葉、行動は利用者やご家族様に見られていることを意識する/トイレ誘導など利用者の排泄のタイミングを知る	一年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。